

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170500589		
法人名	特定非営利活動法人きらりびとみやしろ		
事業所名	グループホーム喜楽里		
所在地	埼玉県南埼玉郡宮代町川端3-8-25		
自己評価作成日	令和 元年11月 7日	評価結果市町村受理日	令和2 年2 月5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

モットーである「安心、安全、尊厳」「困った時はお互いさま」と運営理念の実現を目指しています。NPO法人として制度外のサービスも行っています。地域の方々のご協力を得ながら、子供からお年寄りまで交流できるあたたかなホーム、心のこもったケアを大切に考えています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和元年 12 月 2 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

NPO法人きらりびとみやしろ、が目指す「困ったときはお互いさま」の思いが、当事業所だけでなく、敷地内の同法人事業所(デイサービス、訪問介護、居宅支援他)及び、地域福祉サービス、子育て支援と連携され、住みよい街づくりの拠点となっている。法人代表者の思いが、管理者及び職員にも浸透しており、利用者本位で家庭の延長として「安心・安全・尊厳」が守られている。恒例となっているソバ祭りでは、地域の方が蕎麦を届けてくれたり、ボランティアの協力で350食分のソバ打ちをおこない、利用者、家族及び近隣の方々等で広い駐車場も賑やかになる。合同会議等でフロア職員が手薄になる時には、登録ボランティアの方がヘルプ要員となってくれたり、庭の草むしりや小修繕でもお手伝いがあり、地域が一体となった協力体制がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのつながりを大切に、利用者の思いを大切にすることを理念に掲げ、その理念を共有し、日々実践につなげる様心がけている。	開設時からの「安心・安全・尊厳」を、事業所理念として守っている。年初の合同会議で、個々の目標を設定し、利用者本位の運営を理念に沿って確認している。定例会議でも、事業所の役割を課題としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の花見会・夏祭り・芋煮会等に参加している。また地域の方々と共にホームの行事、夕涼み会・そば祭り等に参加していただき交流を図っている	NPO法人理事長は元自治会長でもあり、近隣者からは「何かあれば言ってください」との声掛けがあり地域に融け込んでいる。至近の大学との交流から学生の職場体験や、講師役で出向くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交流の場として6か所でふれあいサロンを開催している。地域ボランティアの人々には認知症の理解と支援方法の説明会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況等を報告し、様々な立場の方から意見、助言を頂いている。また、会議のみならず、実際に現場の状況、昼食の試食やイベント等に参加し、率直な意見をいただいている。	地域包括支援センターの他、民生委員・各ユニット家族・行政(介護保険課)・地域代表で区長の参加があり、二カ月に一度実施している。災害時の連携方法や、スタッフ不足から紹介を受けたりもしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域のNPO法人として町から事業の委託を受けるなど連携を密に図っている。また、ホームの入居や保険の問題等の相談をするなど必要に応じて状況を伝えサービスの向上に努めている。	行政からの委託事業で“陽だまりサロン”を、小学校の空き教室を利用して実施し、利用者も参加されての交流がある。運営推進会議にも毎回参加があり、行政届け出報告など情報の交流も多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる行為、言動については具体的な内容や気づきにくい言葉がけなどを話し合い、お互い確認している。玄関は危険防止を考慮し状況に応じ施錠している。	同法人の関連事業との全体講習で、何が拘束に当たるかを学んでいる。椅子から落ちないようにする工夫、入浴拒否の方への声掛け等でスピーチロックを話し合った。看取り研修に注力しており、安全の観点から拘束との兼ね合いを話し合った。	利用者の高齢化や、認知度変化に向け、不適切ケアについて学ぶ機会を増やして行きたい。時間や空間の使い方を考え、職員の更なる質の向上を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場研修で虐待について学んでいる。言葉、態度、夜勤時などのケアを含め、具体例をあげながら、接するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がいらしたので実際に学ぶことが出来、また公正証書を作成した方が入居中なので、制度について学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居退去時は職員も含めて利用者や家族の方と会い、十分な説明を行い、理解、納得を図っている。改定等については文書等でお知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は常に利用者や家族からの意見や気持ちに耳を傾ける様にし、面会簿に記入をお願いしている。また毎月訪問にみえる介護相談員さんからは利用者の意見、思いを聞いて頂き、反映している。家族との個人面談は随時行っている。	家族の来訪時は、意見を聞く機会でもあり、病院受診を家族にお願いしているので都度の情報交換もある。年に一度、管理者とユニット長で家族面談を行っており、認知症が進まない方策を話したりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットにおける会議や全体会議を通し職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また年1回の個人面談や毎日の引き継ぎ時に職員から意見を聞き反映させるようにしている。	定例会議で意見を出して貰う他、年の初めに一年を振り返るとともに新しい目標などを個別面談で意見交換している。外回り掃除や館内掃除の一部を外部委託するようになったのは職員からの提案であった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算取得に伴い、キャリアパス及び給与表の整備を行い、全職員に周知している。個人面談等を通して一人ひとりの意識改革ができる様働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回の職員研修、2か月ごとのグループホーム全体会議で研修を行っている。外部研修等は積極的に取り組み、研修参加後はカンファレンスや全体会議等で報告し全体で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、地域との懇談、事例検討等の勉強会の場を通し、質の向上への取り組みをしている。また相互の意見交換や見学等もさらにすすめて行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階で見学して頂き、不安を取り除けるよう傾聴し和やかな雰囲気の中で関係づくりに努めている。また、法人やグループホーム内でのイベントがある時は参加して頂くよう声かけしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの不安なこと、問題点等は解決するまで相談、聴く機会を作り、お互いに信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が希望している支援は何かを充分話し合い、助け合い活動、ディサービスなどを利用した在宅生活の支援などの助言も行っている。介護支援専門員に繋げるケースもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買物や散歩、地域の行事等、行動を共にしたり、配膳、洗濯物たたみ等できる事を手伝っていただき助け合う関係を構築、職員は謙虚な気持ちで接するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どのような支援が望ましいか家族と一緒に話し合っている。受診は家族にお願いしている。行事に参加していただいたり、電話手紙等家族と連絡を取り合い、相談しながら関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人等馴染みの方々がいつでも面会したり、外出できるよう支援している。また散歩ボランティアと共に近所を訪れ馴染みの人や場所との関係が続くよう支援している。	近隣知人の来訪も多く、携帯電話を持っている方は自身で呼んでいる。お気に入りの床屋さんへ通い、終わると連絡を受けて迎えに行く方もある。俳句の上手な方は、きりぎりすと通信へ投稿され喜ばれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個々の価値観や好みに応じて利用者同士が話しをしたり、歌を唄うなど関わり合う環境をつくり、声かけしている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も連絡を取り合い、情報交換等行っている。助け合い活動の利用の継続、行事等の参加の声かけも行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の声や表情、態度から、思いや希望を把握し、共同生活の中で出来る事には意向に添うよう努めている。	夜勤者が寄り添って聴いており、申し送りノートで共有している。表現の難しい方からは、心の声を捉えるようにしており、気づき等は個人記録に残しており、こんなことが出来る等の発見と喜びもある。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後も継続的に本人、家族から今までの暮らしぶりをお聞きし、職員間で話し合い、対応している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに目配り、気配りをし、状態観察をした上で、声かけし、心身状態を把握するよう努めている。本人のつぶやきなども聞き漏らさぬよう記録し、有する力を活かして頂く様な支援を行っている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの要望を聞き、定例会議、ミニカンファレンスで利用者個々の現状を把握し計画書に反映させている。	利用者個々の目標とエピソードを記録し、「○○だと良いな」をカンファレンスで話し合っている。計画作成者の介護計画は、管理者を経て家族との個別面談で説明と相談をしている。居室担当者の意見も含む。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の細かな情報はケース記録や申し送りノートに記入し、重要な事項は口頭で伝え、職員間で情報の共有化を図り実践している。介護計画の見直し時には日々の情報と家族、本人の思いを活かし作成している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ建物内にある、ディサービスのイベントに参加したり、助け合い活動を利用したの外出など、本人や家族の状況も含めて柔軟な対応や支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要に応じてボランティア、陽だまりサロン等の文化施設への交流等、地域資源との協働を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望でかかりつけ医に受診していただいている。受診は家族にお願いしているが、緊急時や、家族が対応できない時は、職員が同行している。訪問診療を利用されている方もいる。	かかりつけ医か訪問診療医かを選んでもらう。家族対応で従前のかかりつけ医へ通う方が多い。訪問医は月二回の来所があり、訪問歯科医も要請により来てもらう。同法人の看護師により相談することも多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月曜から金曜まで看護師が常駐しており、月曜日はホーム内で看護師に適切な看護や助言をしてもらっている。その他必要に応じ、デイサービスから来て対応、夜間などは電話での助言など、適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には家族や病院側と出来るだけ多く情報交換を行い、退院時にむけてスムーズに受け入れできる様支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた対応として、協力病院と訪問診療にお願いすると共に看護師との連携を行っている。家族等、職員、助け合い活動と共にチームケアが行えるよう方針を共有し連絡体制を整えている。個別に家族との懇談を行い終末期に向けた対応を確認している。	入居時に重度化指針を説明し、出来ることと出来ないことを理解してもらっている。看取りを希望される方は訪問診療へ切り替える方もある。看取りに近い最期を迎えた方もあるが、必要性を感じており、内部研修も取り入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救命救急法の研修を殆どの職員が一度受講しているが、再度受講するよう計画している。会議などでは緊急時の対応として、個々の具体的な対応について話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回行っている。消防署の方々に来て頂く実践的な訓練と地域防災訓練に参加し地域と協力体制を築いている。	年二回の訓練で夜間想定も行っている。消防署員からの講和と消火器やAEDの使い方訓練も行っている。地域との連携からパトライトを設置しており協力体制がある。地域防災訓練にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修、会議において度々尊厳について話し合い、謙虚な気持ちで対応する事を心がけている。言葉かけについてもスタッフ同士で注意を払い、カンファレンスで確認している。	入居時に、写真の使用など確認を取っている。パソコンを含め個人情報の管理は法人事務所で厳格である。尊厳研修では、後ろからの呼びかけや無視などのないよう学んでいる。トイレ介助もドアは閉めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉にならない思いを表情などから受け止め心声を聞くよう心掛けている。利用者の思いが自由に表出しやすい、又自己決定ができる様働きかけ、言葉かけにも注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態も個々に違うので、全ての方に満足していただく事は難しいが、限られた時間の中で、一人ひとりの生活を大切に、支援するよう努めている。ボランティアさんに依頼する事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットは専門の美容師さんに来ていただき、希望される方は定期的に行っている。指定の理美容院へ行かれる人に対しては、送迎している。好みの化粧品等はスタッフと店に出向き購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、配膳、お茶くみ、片付け、食器拭き等、役割を持って参加して頂くよう、又音楽を聴きながら、食事をしたり、外食、誕生会など特別の日を設定し、楽しんでいただけるような支援をしている。	食材を見てもらい、何が出来るか話し合い、下ごしらえから手伝う方もある。回転寿司やラーメン外食も喜ばれ、お弁当宅配も人気がある。献立委託先とは意見交換会を通して、要望や季節食を話し合っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回、摂取量、水分量は記録し、栄養バランスに関しては栄養士の方に依頼している。水分を取りにくい方にはゼリー等で補い、とろみ、キザミなど個々に応じた対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員の方に声掛けし、行っていたく様努めている。介助が必要な方にはスポンジや口腔用指サックでケアしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、対応している。全員ではないが日中帯はおむつを外し、出来る限りトイレで排泄して頂くよう心掛けている。	排泄チェック表を下に声掛けをしている。日中は殆どの方がリハビリパンツ使用で、排泄はトイレ利用を基本としている。夜のみオムツ使用の方は2～3名である。退院後は立位訓練から始めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士によるバランスの良い献立により、食事を提供している。運動に関しては、散歩、施設内での体操に取り組んでいる。起床時に牛乳を飲んだり、おやつに果物、ヨーグルト等を摂取して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	機械浴の方、入浴拒否をされる方もおられるので、気持ちよく入浴して頂ける様、入浴設定日以外でも、その方のペースにあわせて入浴して頂くよう支援している。季節の行事に合わせて、菖蒲湯、柚子湯なども楽しんでいただいている。	一般浴の他、大浴場と機械浴を備えている。入浴は一日おきを基本としているが、機械浴利用の方は体力も考え2回／週としている。長湯を希望する方対応や、香りを好む方、お風呂会話を楽しむ方はある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は自由に取れるよう配慮している。室内の温度調節、空気清浄、明るさ等チェックしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的、用法、用量を理解した上、服薬後の状態、日頃の変化を観察、確認するよう努めている。用量、内容については職員間で随時話し合い、看護師、訪問診療時に助言を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴からその方が好きな事、得意な事を発揮していただける様、又日々のレクリエーション、行事等職員間で良く話し、楽しくなるよう、喜んで頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩ボランティアさんに定期的に来て頂くなど日常的に散歩外出は行っている。普段行けない所は家族、地域のボランティアさんの協力をいただいている。助け合い、有償運送を利用することもある。	歩行可能な方は全員で散歩に出掛け、重度の方はボランティアの協力を得て外出機会を作っている。お花見は「新しい村」へ家族へも声掛けし一緒に行っており、所有車を利用して全員で行くようにしている。ボランティアの協力は嬉しい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人はお金を所持し、スーパー、薬局などで買い物をしている。イベントや外出時は好きな物を買っていただけるような支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話出来る様な体制はとっている。ホームに届いた手紙などは直接ご本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂ける様、皆で季節の飾り付けをしている。共用の空間は清潔で居心地よく過せるよう配慮している。	各ユニットに玄関があり、共用部窓からは柿やミカンが見え、竹林が見える廊下は風流である。壁面には利用者との共同作品やイベント写真で暮らしの楽しさを感じる。庭に設置されたデッキでは、椅子を運んでお茶会があり、喜ばれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルや椅子以外にゆったりとくつろげるソファや、廊下の突き当たりには木のベンチを置き、利用者同士で会話が出来様なスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れたものや好みのものを持ってきて頂けるよう説明しており、居心地の良いスペースとして活用していただけるよう、ご本人と一緒に清掃整理、レイアウト等行っている。	ベッド・空調機・照明と収納棚が備えてあり、他は使い慣れた物を持参されている。家族写真や好きだった犬猫写真を飾る方、一人用こたつを備える方もある。出来る方はモップ掛け掃除等行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差なく、必要な所は手すりを設置している。危険な所がないよう、入居者の混乱や失敗を軽減し、自立した生活ができる様、支援を行うようにしている。		